

YAYOI

自動壁紙糊付機械

COATA^X.[®]

スーパードライブスリッター搭載

取扱説明書

安全のためご使用前に必ずお読み下さい



このたびは、当社壁紙自動糊付機械『COATA^X.[®]』をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

ご使用に際し、事前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、十分ご理解いただいた上でご使用ください。ご不明な箇所がありましたら、巻末に記載しました当社までお問い合わせ願います。

なお、この取扱説明書はいつもお手元に保管され、ご利用いただきますようお願い申し上げます。

Yヤヨイ化学工業株式会社

お使いになる前に

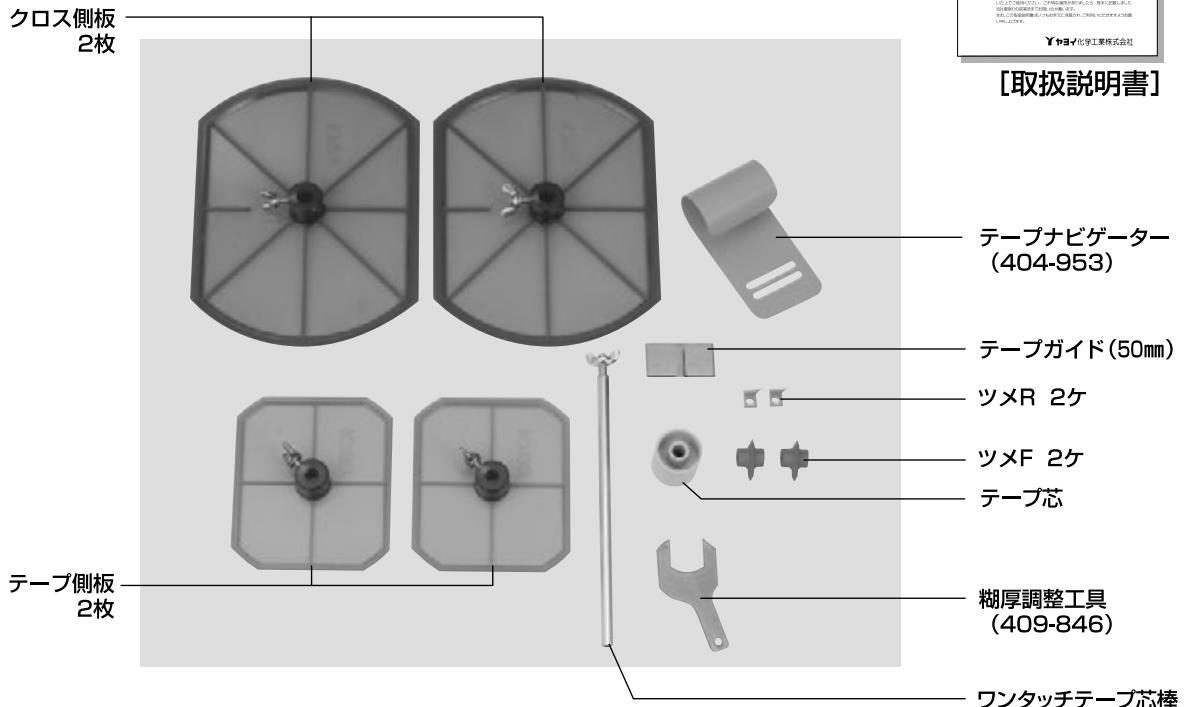
●本機をご使用になる前に、下記の梱包内容がすべて揃っていることをご確認ください。

COATA^X®

商品番号 408-600 (COATA^X ブラックマイカセット)
408-620 (COATA^X シャインホワイトセット)
408-050 (COATA^X レッドマイカセット)

- 1 糊付機械・本体
- 2 スーパードライブスリッター
- 3 コントローラー
- 4 クロス芯棒
- 5 NEWテンションバー1,2,3 (計3本)
- 6 取扱説明書 (本書)・付属品
- 7 保証書

[付属品]



目次

1 取扱い上のご注意	4
2 各部の名称	7
3 機械のセット	
脚・テンションバー	11
本体・コントローラー	12
スリッター	13
4 作業準備	
クロス原反のセット	14
カットテープのセット	15
糊の供給・糊厚調整	16
ツメ位置の調整・裁断幅の調整	17
5 糊付作業手順	
クロスの通し方	18
糊付け作業	19
6 コントローラーの操作方法	
操作スイッチ	20
操作パネル	21
操作方法	
通常糊付画面	22
詳細糊付画面	23
残量設定、トータル・補正	24
履歴確認、カウントストップ機能	25
エラー表示	26
7 本体部の掃除・手入れ	27
8 機械の調整・点検	29
9 スリッター刃物の交換方法	31
10 故障だと思われる前に	32
11 別売オプション	34
12 仕様	35

取扱い上のご注意

自動壁紙糊付機械をご使用いただくには、正しい取扱いと定期的な保守・点検が不可欠です。本文をよくお読みいただき、十分にご理解された後、糊付作業ならびに保守作業を行ってください。

この取扱説明書では、誤った取扱いをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

△ 警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人身事故につながる恐れのある内容を示しています。

△ 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、機械の破損・故障につながる恐れのある内容を示しています。

※メモ これを知っておくと便利という内容を示しています。

△ 警告



プラグを抜け

煙が出ている、変な臭いや異音がする等の異常状態のまま使用すると、火災・感電等の原因となります。すぐにコントローラーの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



プラグを抜け

作業終了後は、コントローラーの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



分解禁止

コントローラーを分解したり、改造したりしないでください。感電・故障等の原因となります。内部の点検・修理は、当社各営業所に依頼してください。



水ぬれ禁止

コントローラーに水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。火災・感電・故障等の原因となります。屋外での使用や機械の洗浄時等は、特にご注意ください。



禁 止

電源コードの上に重いものを載せたり、コードが機械の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電等の原因となります。



警 告

電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線等）、当社各営業所に交換修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電等の原因となります。



禁 止

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電等の原因となります。



警 告

糊付機械作業中は、ローラーやギヤ等の間に指をはさまないよう十分注意してください。



電源OFF

コントローラーは機械本体に着脱できるようになっています。着脱の際、必ず先に電源を切ってください。誤って動き出すとかがをする恐れがあります。



外 せ

糊付機械を洗浄するときは、コントローラーとスリッターを取り外して行ってください。ローラーの間に手を巻き込んだり、スリッターの刃物で手を切ったりする等、思わぬ事故を未然に防ぎます。



外 せ

糊付機械を洗浄するときは、オクリダシローラーを取り外して行ってください。ドクターローラーとオクリダシローラーの間に手を巻き込む事故を未然に防ぎます。



警 告

スリッター運転中には絶対に刃物に触れな
いでください。手を切ります。

また、スリッター停止中も十分注意してください。



スリッターのカッターボックスを分解しない
でください。手を切ります。



コントローラーの電源プラグを抜くときは、
電源コードを引っ張らないでください。コード
が傷つき、火災・感電等の原因となること
があります。必ずプラグを持って抜いてくだ
さい。



濡れた手でコントローラーの電源プラグを
抜き差ししないでください。感電等の原因と
なります。また、必ずアースをとってご使用く
ださい。



機械の上に重いものを置かないでください。
機械が変形・破損したり、落下してけがの原
因となることがあります。

禁 止



禁 止

ぐらついた台の上や傾いた所等、不安定な
場所に置かないでください。機械の誤作動や、
倒れたりしてけがの原因となることがあります。
必ず水平な場所で使用してください。



警 告

脚ロックレバーを解除し、脚を外に開くとき
や閉じるときは、手をはさむ恐れがあります
ので十分注意して行ってください。



警 告

脚を開き組立てるときは、脚が確実にロック
されていることを確認してください。ロック
の状態が悪い場合、作業中、脚が倒れて、け
がをする恐れがあります。また、脚を内側に
折りたたみ収納する際、脚が確実にロックさ
れていることを確認してください。ロック状
態が不十分だと運搬時に脚が開き、足をけ
がする恐れがあります。ロック状態が悪い場
合は、部品交換ないし修理をご用命ください。

⚠ 注意



注 意

精密機械ですから落としたり、ぶつけたり、極
端な衝撃を加えないでください。



注 意

電圧低下、電圧変動によりコントローラーが
正常に作動しない場合がありますのでご注
意ください。



注 意

コントローラー、スリッターは、本体から取り
外して別に運搬してください。運搬中に機械
が落下して破損する恐れがあります。機械本
体と脚部を同時に運搬される際は、機械本体・
上下フレームのパチン錠、本体と脚のパチ
ン錠を必ず掛けてください。また、糊タンク
ロックを『閉』の位置にしてください。



禁 止

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があた
る場所等、異常に温度が高くなる場所や、湿気
の多い場所に長時間放置しないでください。
機械の変形・故障等の原因となることがあります。



禁 止

掃除をするときはワイヤーブラシなど、かた
いものでこすらないでください。ローラー等
の表面に局部的な力を加えると破損する恐
れがあります。



注 意

液晶表示は、使用温度範囲(0~40°C)を超
えると、表示が見えにくくなることがあります。
また、低温(0°C以下)になると表示切替りの
レスポンスが遅くなる傾向があります。低温
時は予め10分程度、通電後、糊付作業を行つ
てください。



注 意

液晶表示は、見る方向によって表示が見えに
くくなることがあります。



注 意

使用後はローラー、糊タンクは水洗いし、ス
テーや脚等、糊のついたところは、水を含ま
せた雑巾等で拭き取った後、乾いた雑巾で
乾拭きしてください。洗浄、拭き取りが十分
でないと部品の劣化や変色に至る場合があ
ります。



注 意

ドクターローラー、糊ローラーの水洗いは厳
密に行ってください。乾燥後、薄い糊の皮膜
が残っているだけでも、糊付けのムラ、かす
れの原因となることがあります。



注 意

オクリダシローラー、検尺ローラーに糊がつ
いたときは必ず雑巾などきれいに拭き取
ってください。糊がついた状態で放置すると
ひび割れすることがあります。



禁 止

機械に糊を入れたまま長時間放置しないで
ください。特に機械が新品の使いはじめの
時期は、必ず使用後に機械を洗浄してくだ
さい。糊ローラー、ナラシローラー、糊上げ
ローラー、オサエローラー、ドライブローラー、
ノリオケ等のアルミ部材が変色(腐食)
することがあります。ローラーの変色は高
温になるほど進行が早くなりますので、糊を
付けたまま自動車への保管は特に気を付けて
ください。



注 意

経時により、オクリダシローラーや検尺ローラーが変色（黄変等）する場合があります。ローラー間のグリップ力を保持していれば、糊付性能に影響はありません。グリップ力が低下した際は、ピンチ圧を調整したり、場合によってはローラーの交換が必要な旨、予めご了承ください。



注 意

『COATAK』は、当社ルーアマイルド（及びピュアラ）6.5～7.5割希釈で均一な糊付けができるよう設計しております。糊の種類、粘性、使用条件等によって、糊付き状態にバラツキが発生します。レギュレーターに、ルーアマイルド（又はピュアラ）を入れ、規定線までの水の量で希釈すると6.5～7.5割希釈のルーアマイルド（ピュアラ）溶液ができます。



注 意

糊タンク内に糊を入れたまま一晩放置すると、糊の流動性が悪くなり糊切れを起こす場合があります。ご使用前に糊タンク内の糊をヘラで混ぜるか、一旦糊をレギュレーターに戻して再攪拌してください。



注 意

製品出荷時、『COATAK』の糊厚は、糊ローラーとドクターローラーの隙間量で左右同じになるように調整しています。しかしながら、実際に壁紙に糊を付けた状態では、左右の糊付量に若干違いが発生する場合があります。その場合、糊付き状態を確認しながら、本書P16・P29を参考に調整してください。



注 意

コントローラーの糊付スピードは最高毎分20mまで設定できます。壁紙や糊の状態によっては、高速で糊付した場合、糊付状態も悪くなる場合があります。このような場合、低速でご使用下さい。



注 意

コントローラー、取付時底部レバーが本体カバーの穴にしっかり入っていることを確認して下さい。しっかり入っている場合、レバーは14～15mm程度移動します。取付が悪いと、動作中にコントローラーが外れたり、ギヤが破損したりします。



注 意

本体部のコントローラー取付面（軸受カバー2）にシール等貼付しないでください。本製品は、コントローラーからの信号を非接触（コードレス）にて本体へ送信しています。シール貼付により信号伝達が阻害され、読み取り不良を発生させる場合がありますのでご注意ください。



注 意

壁紙や接着剤等の材料状況、あるいは高温時、低温時等、ご使用環境条件等によっては、『COATAK』の糊付性能、スリッター裁断性能、採寸性能等が十分に発揮できない場合があります。このような場合、予め試験使用をご確認された後、本使用してください。



注 意

壁紙材料の種類により壁紙を機械にセットした状態で放置すると、気中の湿気により巾方向に伸びる材料があります。

このような材料を、スリッター裁断後そのままの状態で放置すると、湿気により裁断幅が伸び、放置後にスリッター裁断した裁断巾と巾寸法が異なるため、切斷面に段差が生じ美しい突き付け施工ができない場合があります。このような場合、放置時間を抑えるなど、予めご留意願います。



注 意

スリッターでクロスの耳を裁断時、クロスのセット方法が悪いとまっすぐ切れなかったり、切れ味が悪い場合があります。クロス原反の位置、スリッターのカッターワーク位置を左右同じにセットし、クロスは左右たるみが出ないよう原反を抑えながら機械に引き込んでください。



注 意

スリッターでクロスの耳を裁断時、クロス原反の巻き状態が悪いものや、つぶれた状態の原反等では、まっすぐ切れない場合や耳の端部がつまる場合があります。巻きの悪いものは、耳をそろえ直してご使用ください。つぶれた原反のものは、巻き直すか矯正してからご使用ください。



注 意

カットテープご使用の際、テープが蛇行、シワになる場合があります。テープはまっすぐに裁断されているものをご使用ください。

また、テープ側板のあて方でテープにかかるテンションが調整できます。適度なテンションでご使用ください。



注 意

脚部を折りたたむ場合は、テープ側板が脚部に干渉しないよう、テープ側板を縦方向にして下さい。又、カットテープの巻きが太いと脚部を折りたたむ際、テープが脚部に干渉することがありますので、予め取り外しておいて下さい。

無理に脚部を折りたたむとテープ側板やテープ取付板が破損します。



注 意

壁紙や接着剤の種類、状況によっては、十分な性能が発揮できない場合があります。このような場合、摩耗した部品の迅速な交換が必要な旨、予めご了承願います。



注 意

壁紙材料の種類（巾広の壁紙等）によっては、『COATAK』による糊付けやスリッター裁断ができない場合があります。事前に壁紙の巾寸法、有効巾、リピート等をご確認願います。



注 意

経時のご使用により『COATAK』の構成部品が摩耗し、十分な性能が発揮できない場合、当社営業所宛お問い合わせいただき、部品交換なしでオーバーホールをご用命ください。



注 意

『COATAK』では、予め消耗を想定した部品があります。それらの部品につきましては、保証期間内であっても無償での部品取り替えはできませんので予めご了承ください。



注 意

修理が必要な場合、施工現場にて修理するには修理内容に限度があります。厳密に修理するには、一旦当社へ機械を戻し、詳細な点検調整が必要なことを予めご了承ください。

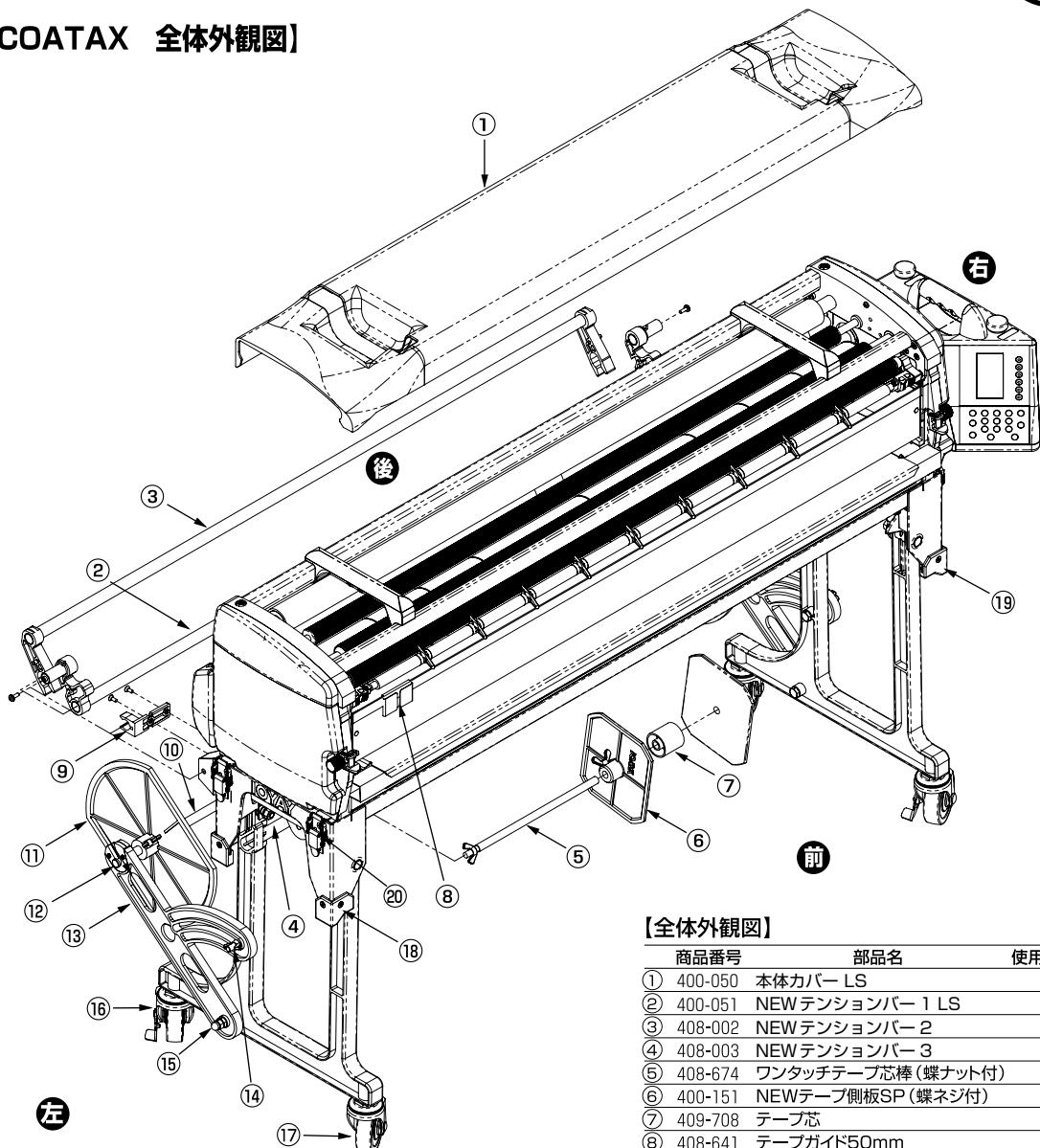


注 意

『COATAK』をご使用の際、取扱説明書、保証書をよくお読みいただき、ご理解された上でご使用ください。本機の保証期間は6ヶ月ですが、取扱い等に問題があった場合、保障できかねる場合がありますので予めご了承ください。

各部の名称

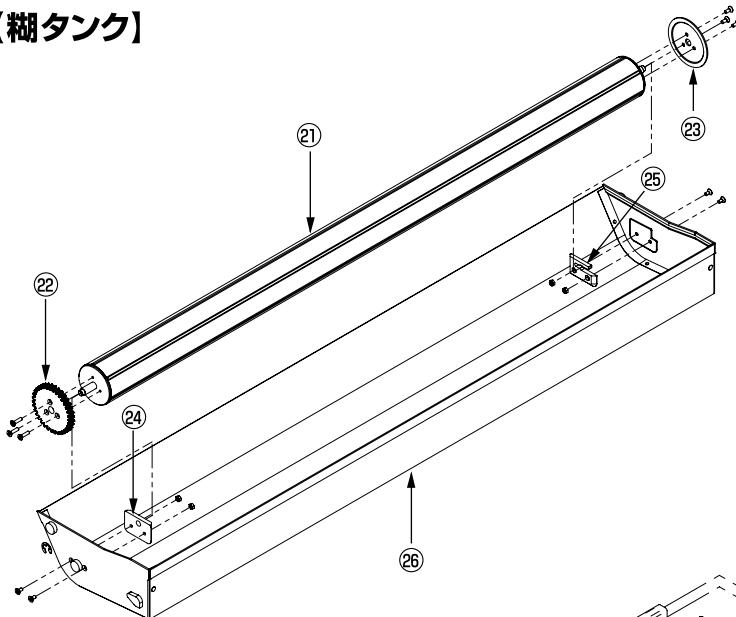
[COATAX 全体外観図]



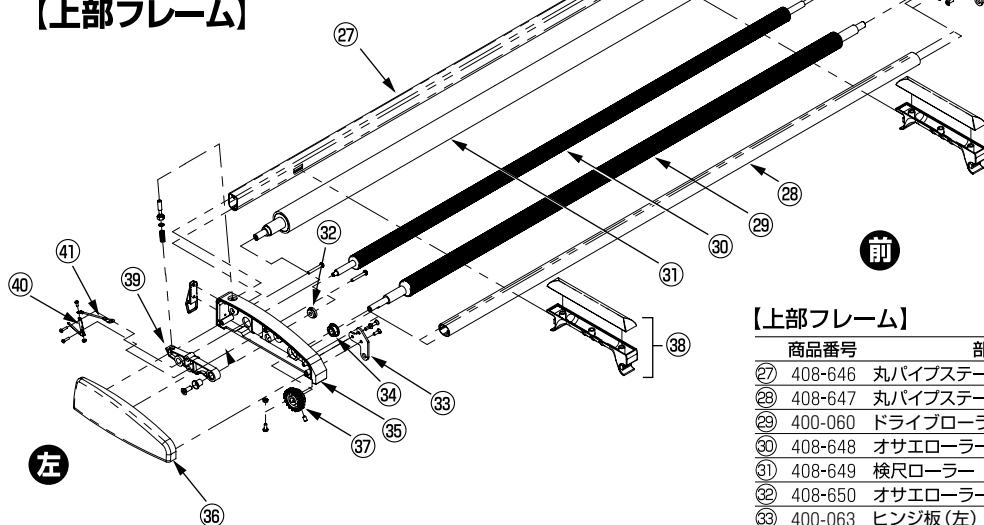
【全体外観図】

商品番号	部品名	使用個数
① 400-050	本体カバー LS	1
② 400-051	NEWテンションバー 1 LS	1
③ 408-002	NEWテンションバー 2	1
④ 408-003	NEWテンションバー 3	1
⑤ 408-674	ワンタッチテープ芯棒(蝶ナット付)	1
⑥ 400-151	NEWテープ側板SP(蝶ネジ付)	2
⑦ 409-708	テープ芯	1
⑧ 408-641	テープガイド50mm	1
⑨ 400-052	テンションバーロック LS	2
⑩ 409-712	クロス芯棒	1
⑪ 404-988	クロス側板W(蝶ネジ付)	2
⑫ 408-604	クロス受け摺動材(ネジ側) ブラック	2
408-605	クロス受け摺動材(ナット側) ブラック	2
408-624	クロス受け摺動材(ネジ側) ホワイト	2
408-625	クロス受け摺動材(ナット側) ホワイト	2
⑬ 409-716	クロス受けブラケット	2
⑭ 404-846	蝶ナットM8	2
⑮ 404-848	袋ナットM8	2
⑯ 408-642	キャスターC スtopper有	2
408-643	キャスターC スtopper無	2
⑰ 408-606	脚キヤップC(左前・右後) ブラック	2
408-626	脚キヤップC(左前・右後) ホワイト	2
⑲ 408-607	脚キヤップC(右前・左後) ブラック	2
408-627	脚キヤップC(右前・左後) ホワイト	2
⑳ 400-053	パチン錠	4

【糊タンク】



【上部フレーム】



【糊タンク】

商品番号	部品名	使用個数
②1 400-054	糊上げローラー LS	1
②2 409-724	糊上げギヤ	1
②3 400-055	糊止めパッキン LS	1
②4 400-056	糊上ブラケット(左) LS	1
②5 400-057	糊上ブラケット(右) LS	1
②6 408-644	糊タンク本体	1

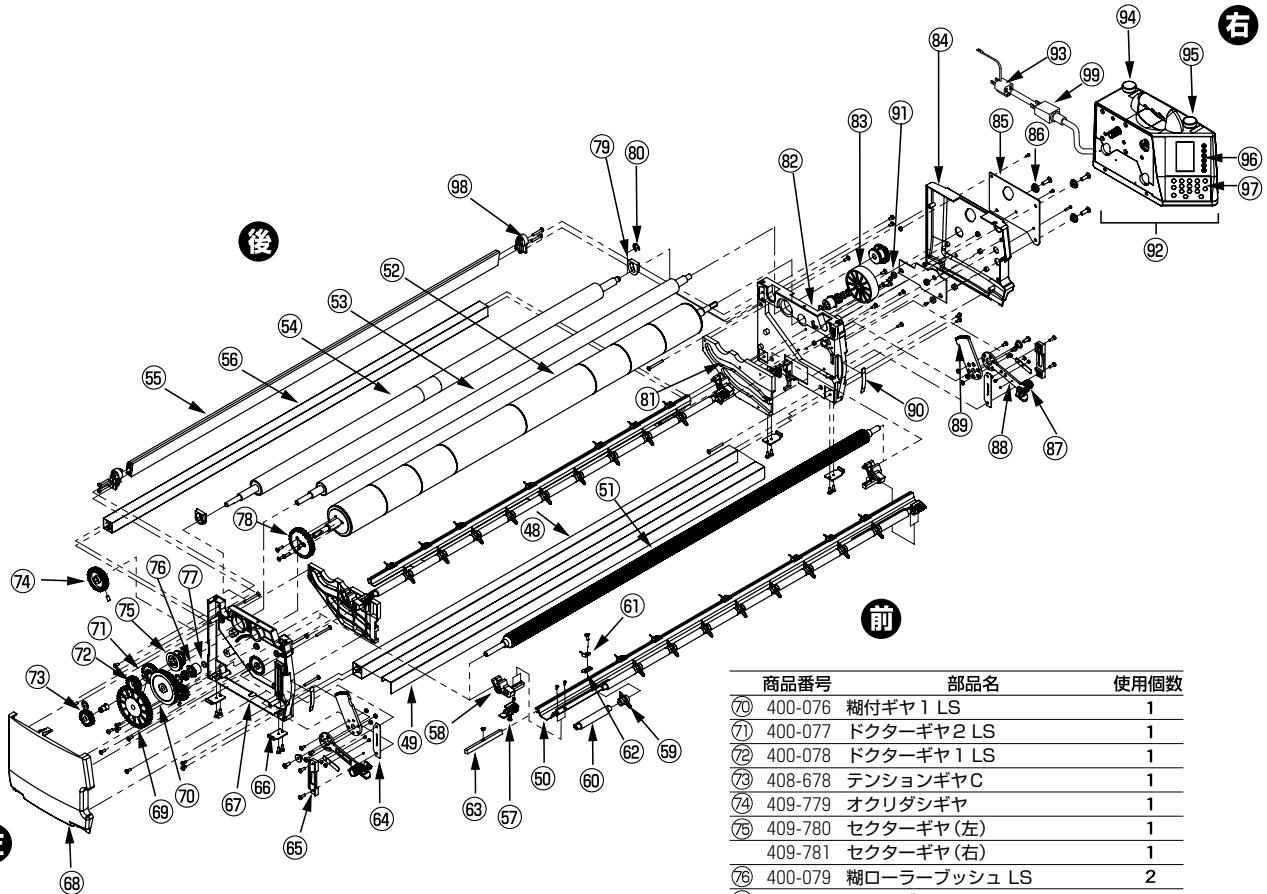
※408-645糊タンク一式(④～⑧)を組立てたものです。)

※400-092/リアグローラーセットLS(②～⑤)を組立てたものです。)

【上部フレーム】

商品番号	部品名	使用個数
②7 408-646	丸パイプステー1	1
②8 408-647	丸パイプステー3	1
②9 400-060	ドライブローラー LS	1
③0 408-648	オサエローラー	1
③1 408-649	検尺ローラー	1
③2 408-650	オサエローラーブッシュ	2
③3 400-063	ヒンジ板(左) LS	1
③4 400-064	ヒンジ板(右) LS	1
③5 408-653	ドライブローラーブッシュ	2
③6 408-654	軸受板3	1
③7 408-608	軸受カバー3 ブラックマイカ	1
408-628	シャインホワイト	1
408-054	レッドマイカ	1
③8 409-741	ドライブギヤ	1
③9 408-616	取手 ブラック	2
408-636	ホワイト	2
③10 409-743	検尺ブラケット	2
③11 409-744	静電防止金具	1
③12 409-745	静電防止金具用電線	1
③13 408-656	軸受板4	1
③14 408-609	軸受カバー4 ブラックマイカ	1
408-629	シャインホワイト	1
408-055	レッドマイカ	1
③15 408-657	センサーケーブル	1
③16 409-749	マグネットフィン1	1
③17 409-750	マグネットフィン2	1
③18 409-751	パチン錠(本体)	2

[本体・コントローラー]



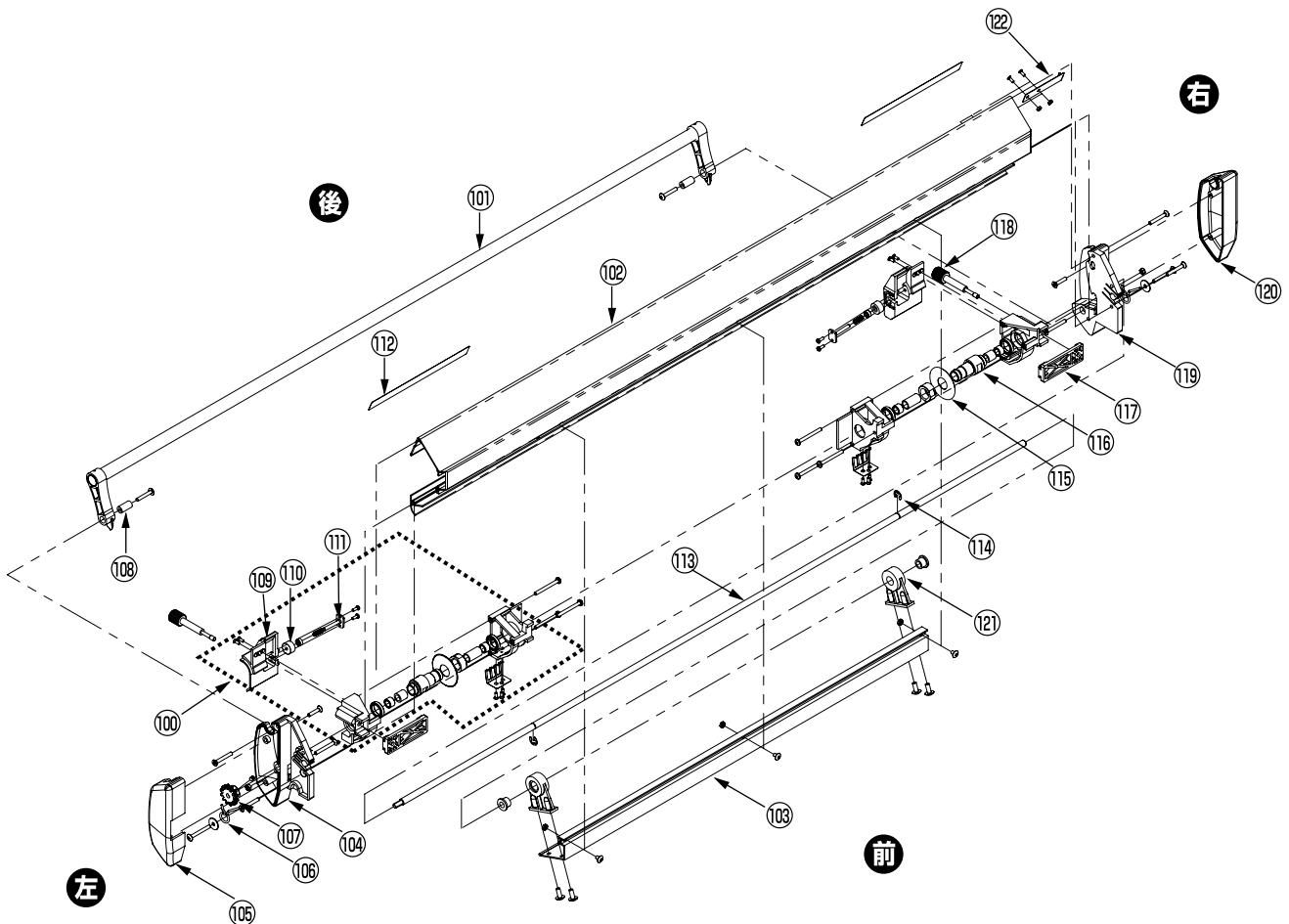
[本体・コントローラー]

商品番号	部品名	使用個数
48 408-658	定規ステー	1
49 408-659	カッターリゲル	1
50 408-660	ツメステー	1
51 400-071	ナラシローラー LS	1
52 408-661	糊ローラー	1
53 408-662	ドクターローラー	1
54 409-758	オクリダシローラー	1
55 400-072	丸パイプステー 2 LS	1
56 409-760	ベースステー	1
57 409-761	糊タンクストッパー(左)	1
409-762	糊タンクストッパー(右)	1
58 408-663	ツメステーブラケット(左)	1
408-664	ツメステーブラケット(右)	1
59 400-473	ツメF LG	9
60 408-666	ツメFスペーサー	10
61 409-766	ツメR	7
62 409-767	ツメ固定具	7
63 408-667	ツメRスペーサー	10
64 409-769	糊厚調整ブラケット1	2
65 409-770	糊厚調整ブラケット2(左)	1
409-771	糊厚調整ブラケット2(右)	1
66 400-075	バチン錠フック	4
67 408-668	軸受板1	1
68 408-610	軸受カバー1 ブラックマイカ	1
408-630	軸受カバー1 シャインホワイト	1
408-056	軸受カバー1 レッドマイカ	1
69 409-775	テンションギヤ1	1

*408-022ツメステー式(60, 67~69)を組立てたものです。

商品番号	部品名	使用個数
70 400-076	糊付ギヤ 1 LS	1
71 400-077	ドクターギヤ2 LS	1
72 400-078	ドクターギヤ1 LS	1
73 408-678	テンションギヤC	1
74 409-779	オクリダシギヤ	1
75 409-780	セクターギヤ(左)	1
409-781	セクターギヤ(右)	1
76 400-079	糊ローラーブッシュ LS	2
77 409-783	Oリング	2
78 409-784	糊付ギヤ2	1
79 409-785	オクリダシローラーブラケット(左)	1
409-786	オクリダシローラーブラケット(右)	1
80 404-840	E型止輪(呼び径8)	1
81 409-787	ガイドレール(左)	1
409-788	ガイドレール(右)	1
82 408-669	軸受板2	1
83 400-083	糊付ギヤ3 LS	1
84 408-611	軸受カバー2 ブラックマイカ	1
408-631	軸受カバー2 シャインホワイト	1
408-057	軸受カバー2 レッドマイカ	1
85 409-792	P C B 強板	1
86 409-793	P C B 止具	3
87 408-612	糊厚ツマミ ブラック	2
408-632	糊厚ツマミ ホワイト	2
88 408-613	糊厚調整レバー(ツマミ付) ブラック	2
408-633	糊厚調整レバー(ツマミ付) ホワイト	2
89 409-794	糊厚調整ギヤ	2
90 409-797	糊厚調整シール	2
91 409-798	センサー基盤取付キャップ	3
92 408-603	コントローラーブラックマイカ	1
408-623	コントローラーシャインホワイト	1
408-053	コントローラレッドマイカ	1
93 409-799	A C 変換プラグアダプター	1
94 409-800	割込SWキャップ	1
95 409-801	ストップSWキャップ	1
96 409-802	表示シート1	1
97 409-803	表示シート2	1
98 400-080	マルパイプステー補助台(右)	1
400-081	マルパイプステー補助台(左)	1
99 400-318	電源ケーブル	1

【スーパードライブスリッター】



【スーパードライブスリッター】

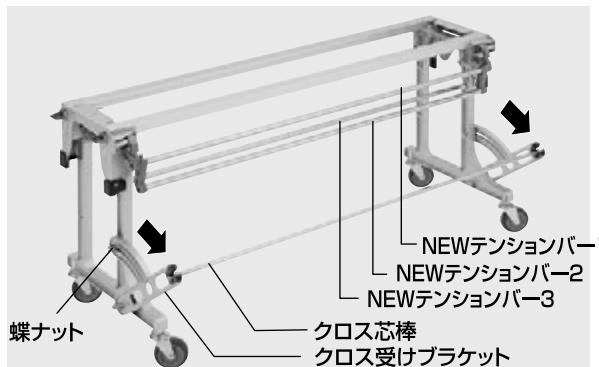
商品番号	部品名	使用個数
⑩ 408-007	カッターボックスセット(左)・N	1
408-008	カッターボックスセット(右)・N	1
⑪ 408-009	スリッターテンションバー・N	1
⑫ 408-010	スリッターレール1・N	1
⑬ 409-812	スリッターレール2	1
⑭ 408-011	軸受板5・N	1
⑮ 408-614	軸受カバー5 ブラックマイカ	1
408-634	軸受カバー5 シャインホワイト	1
408-058	軸受カバー5 レッドマイカ	1
⑯ 409-815	テンションバーバネ	2
⑰ 409-816	駆動軸ギヤ	1
⑱ 409-817	スリッターテンションバー用ヒンジ管	2
⑲ 409-818	耳切りガイド左	1
409-819	耳切りガイド右	1

商品番号	部品名	使用個数
⑩ 409-820	研磨材	2
⑪ 409-821	研磨軸	2
⑫ 409-822	スケールプレート(左)	1
409-823	スケールプレート(右)	1
⑬ 408-012	駆動軸	1
⑭ 409-827	E型止輪(呼び径6)	2
⑮ 408-013	カッターナット	2
⑯ 408-014	カッターナット	2
⑰ 408-015	スライド固定具・N	2
⑱ 409-831	刃幅調整ツマミ	2
⑲ 408-016	軸受板6・N	1
⑳ 408-615	軸受カバー6 ブラックマイカ	1
408-635	軸受カバー6 シャインホワイト	1
408-059	軸受カバー6 レッドマイカ	1
⑳ 408-017	SSプラケット・N	2
⑳ 408-018	静電防止金具2	1

機械のセット

脚部の組立、テンションバーの取付

- ①脚ロックレバーを手で引き上げながらロックをはずし、矢印Aの方向に開いてください。
(図1図参照)
- ②蝶ナットを緩め、クロス受けブラケットを図の方向に倒してください。(第2図参照)
- ③蝶ナットを固定してください。
- ④NEWテンションバー3を第2図のように設置。

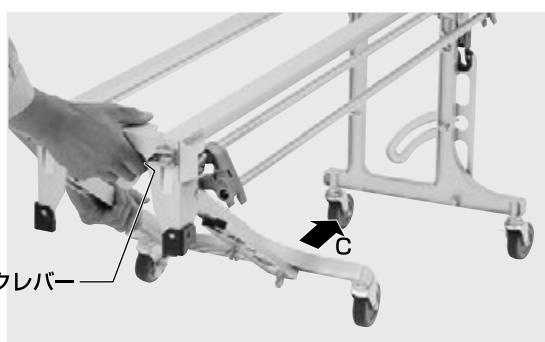


第2図(脚部組立状態)

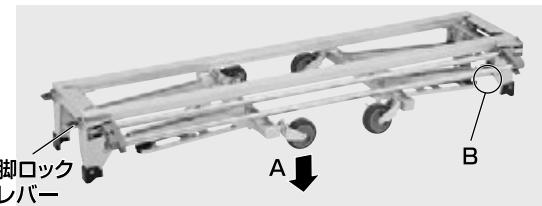
脚部の折りたたみ、収納

第3図の脚ロックレバーを手で引き上げながら、矢印Cの方向に脚を折りたたみ、ロックさせてください。

(脚ロックレバーは握ったままの状態ですと、ロックはかかりません。ロックが解除されましたら、脚ロックレバーから手を離してください。組立・収納どちらの場合も同じです。)



第3図



第1図(脚部を折りたたんだ状態)

⚠️ 警告

脚を外に開くとき、第1図のB部(4力所)に手をはさむ恐れがありますので、十分注意して行ってください。

⚠️ 警告

脚ロックレバーを解除し、脚を外に開くときや閉じるときは、手をはさむ恐れがありますので十分注意して行ってください。

⚠️ 警告

脚を開き組立てるときは、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロックの状態が悪い場合、作業中、脚が倒れて、けがをする恐れがあります。また、脚を内側に折りたたみ収納する際、脚が確実にロックされていることを確認してください。

△ 注意

脚部組立の際、脚ロックレバーを解除しますと、脚部がフリーの状態になりますので、手や足などにケガをしないように注意してください。

△ 注意

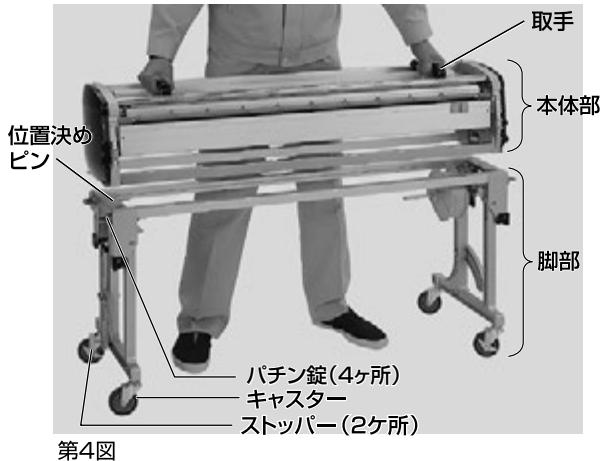
脚部を折りたたむ際は、NEWテンションバー3を予め取り外しておいてください。
(取り付けたままでは、たためません)

△ メモ

クロス芯棒及びNEWテンションバー3は、スリッターに収納できるようになっています。NEWテンションバーの中にクロス芯棒を通した後、スリッターに収納ください。

本体部の取付

- ①キャスターのストッパー（2ヶ所）を下に押し（ON位置）、ロックさせてください。
- ②機械本体を背面より持ち上げ、脚部上部に載せてください。（第4図参照）
その際、脚部上部（左右2ヶ所）にある位置決めピンが本体部下部（左右2ヶ所）にある位置決めU溝部（第5図参照）に入るようセットしてください。
- ③パチン錠（4ヶ所）で本体部と脚部を固定してください。



コントローラーの取付

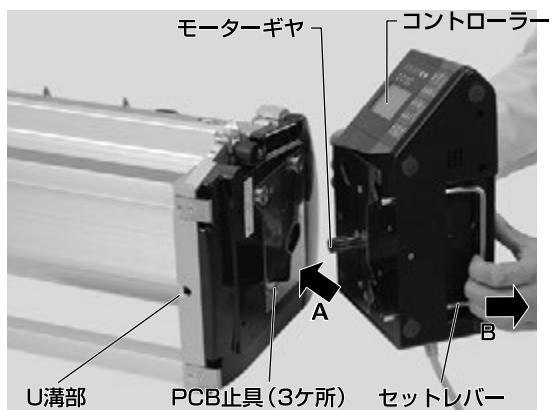
- ①Aの方向にコントローラーを持っていき、本体側面のPCB止具（3ヶ所）にコントローラー側の切欠穴（3ヶ所）をあわせてください。（第5図参照）
- ②セットレバー（コントローラー下部）をBの方向に引きながら、糊付けギヤ3とモーターギヤをかみ合わせた状態で斜め下向きにスライドさせ、コントローラーが完全に機械本体にロックされたところでセットレバーをはなしてください。コントローラーを上に引っ張ってもはずれない状態が完全にロックされた状態です。

△ 注意

製品出荷時は、本体部と脚部を逆に取付けてありますので、正しい位置に取付け直してご使用ください。

△ 注意

本体部、脚部をパチン錠（4ヶ所）で確実に固定してください。



コントローラーの取り外し

コントローラーのセットレバーをB方向に引きながら斜め上向きにスライドさせるとコントローラーは取りはずせます。

△ 警告

コントローラーの着脱を行うときは、必ず電源を切ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

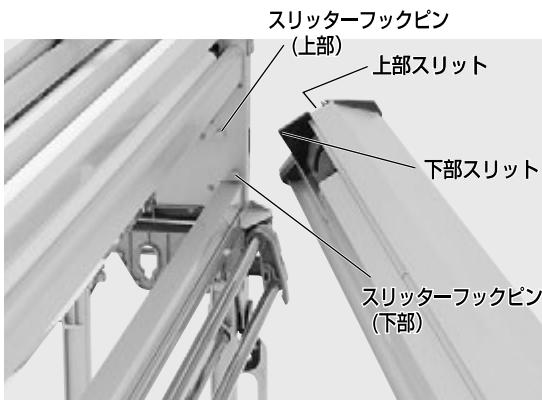
△ 注意

機械本体にコントローラーが正しくセットされていないと、故障の原因となることがあります。

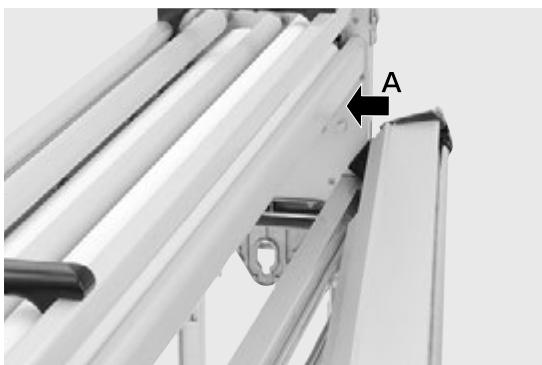
また、運転中にセンサーフラッシュを表示したり、設定長さよりもクロスが長く出たり、動かなくなったりすることがあります。

スリッターの取付

- ①スリッターを機械本体の背面に取付けます。スリッター軸受板（下部スリット）を機械本体の左右の軸受板にあるスリッターフックピン（下部）に引っかけます。
(第6図、第7図参照)
- ②スリッター上部をA方向に押し込み、軸受板のスリッターフックピン（上部）にスリッター（上部スリット）をセットします。
(第7図、第8図参照)



第6図（スリッター取付前）



第7図（スリッターを引っかけた状態）



第8図（完全にスリッターをセットした状態）

⚠ 警告

スリッターの取付けを行うときは必ずコントローラーの電源を切ってください。誤つて動き出すとけがをする恐れがあります。

⚠ 警告

スリッターを取付けるときに刃物で手を切らないように注意してください。

△ 注意

スリッター取付時、スリッターの上部、下部が左右とも確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分な場合、スリッターが正常に動作しなかったり、落下する恐れがあります。

また運搬時、強い衝撃や揺れでスリッターが本体から外れる場合がありますので、ご注意下さい。

※スリッターの駆動軸ギヤが正常にかみ合っていない場合、固定が不十分になります。

クロス原反のセット

- ①脚部の蝶ナットを緩め、クロス受けブラケットを手前に引き出し、蝶ナットを確実に締め込んでください。(第9図参照)
- ②クロス原反にクロス芯棒を通し、クロス側板で両側からはさみ込みます。
- ③クロス芯棒の溝部をクロス受けブラケットにはめ込みます。クロス受けブラケットとの間隔が左右同じとなるようにクロス原反を中心にして、クロス側板で両側から固定します。なお、クロス側板は原反に強くあてすぎないようにしてください。



△警告

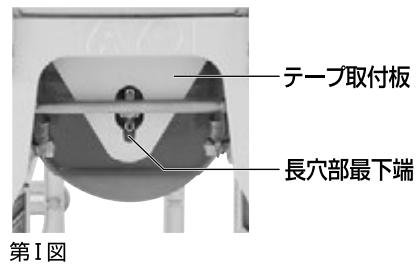
クロス原反にクロス芯棒を通す際、またクロス受けブラケットにセットする際等、手をはさんだり、原反を落下させ、けがをされないように十分に注意してください。

△注意

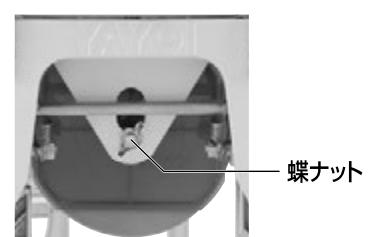
クロス原反を中央にセットし、スリッター裁断目盛を左右同じにしてもクロスの耳くずの幅が左右同じにならない場合は、クロス原反を耳くずの幅の狭い方へ少し移動してください。

<テープワンタッチ脱着機構>

[脱着時の状態]



[装着時の状態]

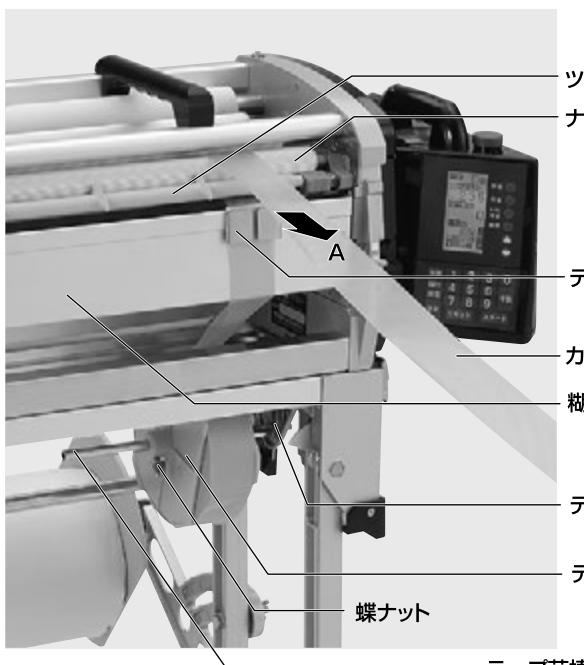


△注意

テープ芯棒(ネジ部)をテープ取付板の長穴部最下端にセットし、蝶ナットを確実に閉め固定してください。

カットテープのセット

- ①カットテープの紙管内にテープ芯を入れた後、テープ芯の穴にテープ芯棒を通し、テープ側板で両側からはさみ込みます。
- ②テープ芯棒（ネジ部）をテープ取付板の長穴に差し込み、蝶ナットで確実に締め込みます。テープワンタッチ脱着機構によりカットテープの脱着が蝶ナットを付けたまま容易に行えます。（P14 第10図、第11図参照）
- ③テープガイドを糊タンク前面の所定位置に上から差し込んでください。（第12図参照）
- ④カットテープをテープナビゲーターの穴に通します。（第13図参照）
- ⑤テープナビゲーター先端部分より、ツメステーとノリオケの隙間から、ナラシローラーに沿わせて、入れていきます。（第14図、第15図参照）
- ⑥テープナビゲーターを引き出した後、カットテープを取り出し、テープガイドに収めてセット完了です。（第12図、第16図参照）



第12図

△注意

ナラシローラーのカットテープ通過部分に糊が付着している場合、必ず糊を拭き取ってからセットしてください。糊が付着しているとカットテープがナラシローラーに巻き込んだり、カットテープがクロスにダブついて付いたり曲がって付く場合があります。

△注意

カットテープの種類によっては、巻きが太く、取付ける際、脚部に干渉する場合があります。

△注意

脚部を折りたたむ場合は、テープ側板が脚部に干渉しないよう、テープ側板を縦方向にして下さい。

又、カットテープの巻きが太いと脚部を折りたたむ際、テープが脚部に干渉することがありますので、予め取り外しておいて下さい。無理に脚部を折りたたむとテープ側板やテープ取付板が破損します。

△メモ

カットテープのテンションはテープ側板のあて方で調整してください。

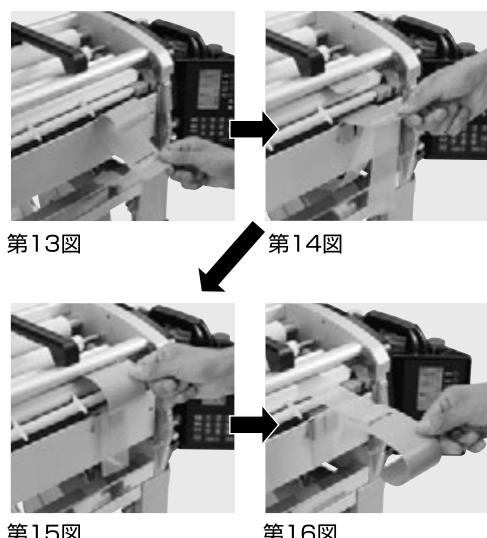
△メモ

テープナビゲーターを使用すれば、カットテープや下敷テープをセットする際、ローラーやツメステーを取り外さず、上蓋を閉めた状態で簡単に装着できます。

△メモ

テープナビゲーターはカットテープを本体にセットする時にのみ使用します。カットテープを本体にセットした後はテープナビゲーターをカットテープから外してください。また、糊付時にカットテープにテープナビゲーターがついていないことを確認してください。

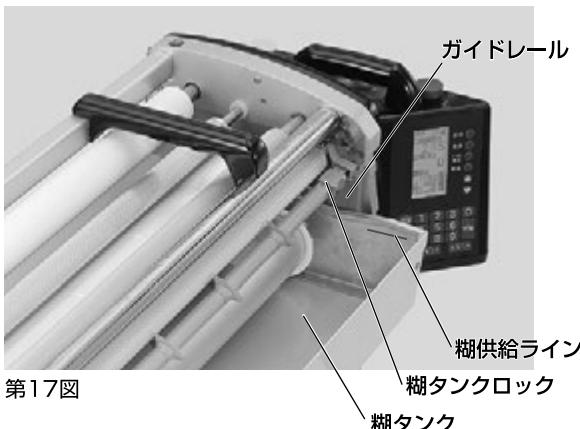
<テープナビゲーターの使用手順>



※テープナビゲーターの形状等が変形し、入れづらい場合は、手で形状等を直して使用してください。

糊の供給

- ①糊タンクロックを『開』の位置に移動させます。
- ②糊タンクを手前より僅かに持ち上げた後、ガイドレールに沿ってゆっくり引き出し（約7cm）、固定位置で止めてください。ガイドレールには、固定のくぼみがあります。（第17図参照）
- ③引き出した糊タンクの上から、糊を糊タンクの中全体に広がるように入れます。
- ④糊タンクを手前より僅かに持ち上げた後、ガイドレールに沿ってゆっくり押し込み所定の位置に固定してください。



第17図

糊厚の調整

本機正面の糊厚調整レバー（左右各1ヶ所）を上下することにより、糊口ーラーとドクターローラーの間隔が変化しますので、最適な目盛位置にセットして糊厚ツマミを締めてご使用ください。尚、糊を入れ運転させながら行うと糊厚調整は容易です。（第18図参照）



第18図

△ 注意

ツメステーの両側に『糊タンクロック』が装備されています。『糊タンクロック』は運搬や移動の際、振動等により『糊タンク』が前面に出ないよう事前にロックする機構です。

- ・糊タンクを引出す場合→(開)の位置に移動した後、糊タンクを引き出してください。
- ・運搬や移動をする場合→(閉)の位置に移動した後、運搬や移動してください。

△ 注意

糊を供給する際は、糊タンクをガイドレールの固定くぼみで止めて行ってください。糊タンクを引き出し過ぎると床に糊がタレたり、糊タンクがはずれたりします。

△ 注意

接着剤の種類や希釈する際の水の添加量や希釈方法、希釈後の時間、あるいは気温等の環境条件等により接着剤の粘性が違います。最高スピードで運転しても糊があふれない程度に入れてご使用ください。入れすぎると糊が手前からあふれ出します。

目安として、糊タンク両サイド内側の糊供給ライン（リブ下線）以下になるよう糊を入れてください。

△ 注意

出荷時に糊厚を左右同じになるように調整しています。しかしながら、実際に糊付けした状態では、左右の糊付量に若干違いが発生する場合があります。その場合は糊付け状態を確認しながら、本書P29を参考に調整してください。

△ 注意

高粘性の接着剤を糊付けした場合、壁紙の種類によっては糊タンク内に糊が残存していても、糊切れを起こしたり、糊付有効m数が減少する場合があります。

特に高粘性の接着剤で糊厚を絞り、糊付スピードを早くした場合、発生しやすくなります。その場合は、適度に粘性をゆるめたり、若干糊厚を増やしたり、あるいは糊付スピードをゆるやかにする等調整してください。

△ 注意

糊厚調整レバーはラベルの目盛範囲内で動かすようにしてください。無理に動かしますと機械の故障原因となります。

ツメ位置の調整

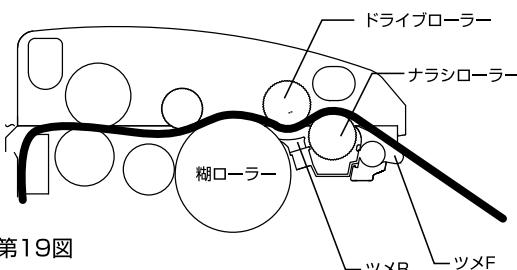
ツメの位置が悪いとクロス巻き込みや異音の原因となります。作業前に確認・調整を行ってください。

ツメR

ツメRは先端が糊ローラーの溝の底に少し触れる程度に調整してください。又、糊ローラーの縦溝(7本)に各々のツメRが溝から出ない位置にビスで固定してください。

ツメF

ツメFはナラシローラーに触れない程度に手で回し調整してください。



第19図

裁断幅の調整

- ①スリッターの刃幅調整ツマミ（左右各1ヶ所）を時計の針と逆方向に2回転ほど緩めるとカッターボックスを左右にスライドすることができます。
- ②カッターボックス内のAのラインがスリッターの刃の位置を示しています。Aのラインをスケールプレートの所要寸法位置にあわせ、Aのラインが左右のスケールプレートで同じ値にあることを確認して刃幅調整ツマミを締めてください。(第20図参照)

△メモ

ツメは消耗部品ですので、破損や磨耗が大きい場合、新しいものと交換してください。

※ツメF、ツメRは各2個予備として付属しています。

△注意

ツメの位置が悪いと、動作時、ツメがローラーに当り、異音が発生する事があります。

△注意

壁紙の種類によって表装面が異なり、オサエローラーやドライブローラーの溝により表装面を押さえて音が発生する事がありますが異常ではありません。

△メモ

ツメFを下方向に強く回すと、ツメステーよりツメFを取り外すことができます。また、新しいツメFを取付ける場合は、ツメステーに強く押し込んでください。

⚠ 警告

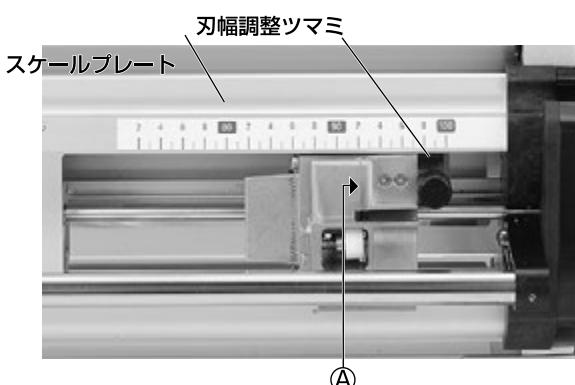
本製品は刃物に触れることがないよう安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分に注意してください。

⚠ 警告

裁断幅の調整は必ずコントローラーの電源を切った状態で行ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

△注意

カッターボックスは壁紙裁断時、切りくずやほこりが排出しやすい構造になっています。しかしながら裁断状況により、カッターボックス内に切りくず等が蓄積した場合、切れ味が悪くなります。その場合、竹串等で内部部品を傷めないよう慎重に取り除いてください。その際、必ずコントローラーの電源を切ってください。又、カッターボックスは分解しないでください。



第20図

クロスの通し方

糊タンク内に糊が入っている状態を確認してください。

①スリッターテンションバーを手前に引いておきます。(矢印A)

NEW テンションバー3を脚部にセットします。NEW テンションバー2は、NEW テンションバー1を押さえ込み左右のテンションブラケットのガイドピンを外し、開口部を広くします。(矢印B)(第21図参照)

②本体のパチン錠2ヶ所を外し、上部フレームを開けてください。

③コントローラーの電源をONにし、運転させると、スリッターの刃物が回転します。

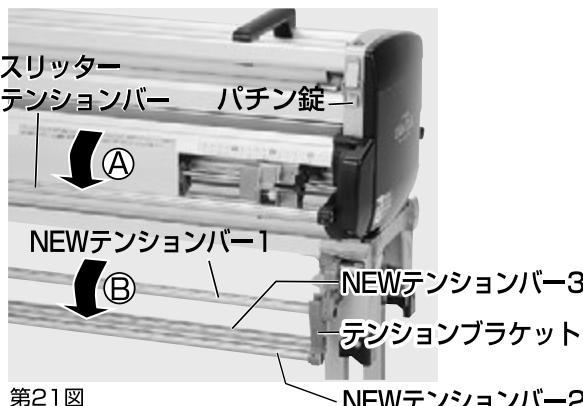
④クロスを引き上げ、NEWテンションバー3、2、1、カッターボックス、本体部の順に通した後、運転を停止させます。カッターボックスにクロスを通す時は原反を足で押さえクロスが張った状態で通してください。(P19 第22図参照)

⑤スリッターテンションバーを矢印Cの方向にたおした後、クロスの耳を引き出します。

(P19 第23図参照)

⑥原反を足で押さえながらクロスを手で引き、クロスが張った状態で上部フレームを閉じます。パチン錠を2カ所を締めて確実にロックさせます。

⑦NEWテンションバー2を矢印Dの方向に持ち上げセットします。(P19 第23図参照)



第21図

⚠ 警告

本製品は刃物に触れることがないよう安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

運転中、ローラー、ギヤ等に手や衣類を巻き込まないよう十分注意してください。

⚠ 警告

上部フレームを閉めるときは、手をはさまないよう十分注意してください。

△ 注意

スリッターテンションバーを下げる際は、片手でスリッターを支えながら行ってください。急激に行いますとスリッターが本体から外れる場合があります。また運搬時、強い衝撃や搖れでスリッターが本体から外れる場合がありますので、ご注意ください。

△ 注意

一般的にテンションバーを使用すると壁紙の蛇行がなくなり、スリッターでまっすぐ裁断できます。しかし、壁紙の種類によっては、重い材料や材料強度の弱いものがあり、テンションバーをかけることにより壁紙が上らなかつたり、あるいは壁紙やテンションバー等を傷める場合があります。このような場合、予め試験使用し、状態によってはテンションバーの使用を避けてください。

△ 注意

クロスをセットした後、左右にたるみが無いか確認してください。たるみがある場合、原反を若干巻き戻し、たるみを解消してください。

△ メモ

壁紙の種類や状態によっては、耳裁ちの必要が無い場合があります。耳裁ちしない場合はスリッターを取り外すか、スリッターテンションバーを手前に引いてセットし、カッターボックスを通さず、スリッターテンションバーの手前にクロスを通します。

△ 注意

スリッターでクロスの耳を裁断時、クロスのセット方法が悪いとまっすぐ切れなかつたり、切れ味が悪い場合があります。クロス原反の位置、スリッターのカッターのカッター位置を左右同じにセットします。カッターボックスにクロスを通しては原反を足で押さえクロスを貼った状態で通してください。上部フレームを閉じる時も同様に原反を足で押さえクロスを手で引き、張った状態で閉じて機械にセットしてください。

△ 注意

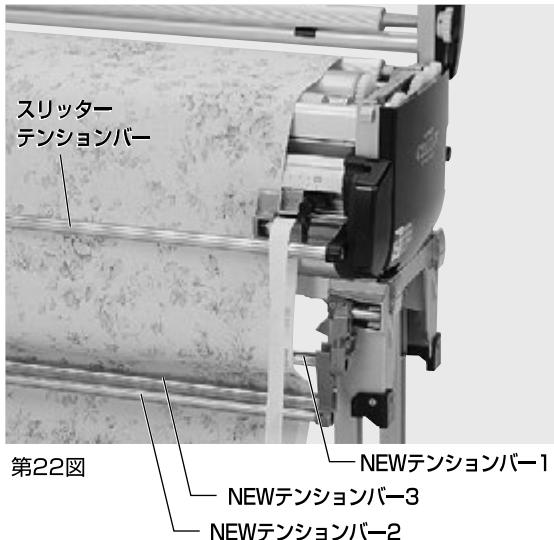
NEWテンションバー2を外す際は、NEWテンションバー1を押さえ込んで外してください。

△ メモ

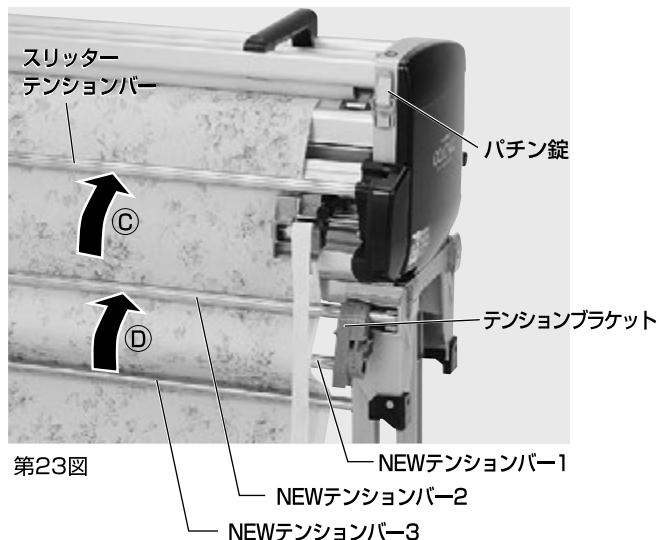
NEWテンションシステムにより、壁紙がセットしやすくなりました。(P19 第22図、第23図参照)

NEWテンションシステム

<クロスを挿入する時の状態>



<糊付け作業時の状態>



糊付け作業

- ①糊付け作業を始める際、操作パネルの寸動を使用し、クロスに糊がついている部分が切断位置より少し長めになるように送ってください。
- ②第24図のようにカッターフレームに添わせてカッターを走らせ、長めに出したクロスをカットしてください。これでセット完了となります。
- ③操作パネルにて、クロスの長さ設定を行い本機を運転してください。操作パネルの使用方法はP20からP26をご覧ください。

⚠ 警告

糊付け運転中、ローラー、ギヤ等に手や衣類を巻き込まれないよう十分注意してください。

△ 注意

カッターにて裁断する際、必ずカッターフレームに沿わせて裁断してください。

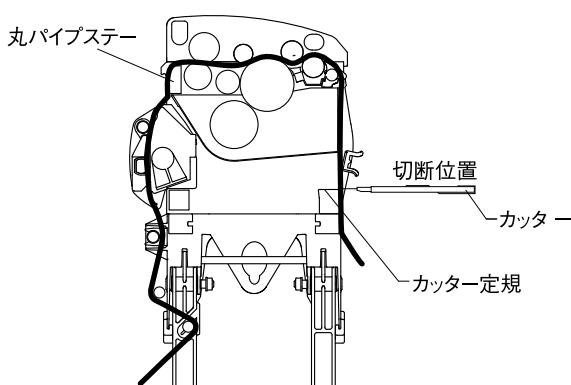
△ メモ

本機は糊付けスピード、寸動スピードおよび割込運転スピードをそれぞれ任意に設定することができます。

糊付けスピードはスタートを押しての運転中、あるいは運転していない時に、寸動スピードは寸動を押し続けての運転中に、割込運転スピードは割込スイッチで運転中に、それぞれ操作パネルの キーを押してお好みのスピードに設定してください。

△ メモ

作業終了時、丸パイプステーにてクロスをカットすると便利です。



第24図

コントローラーの操作方法

操作スイッチ

割込スイッチ

壁紙をセットする場合や、カウントに関係しない運転をしたい場合に使用します。

一度押すとON、もう一度押すとOFFになります。

ストップ

非常停止のときに使用します。



ON・OFFスイッチ

コントローラーの電源をON/OFFします。



注意 コントローラーパネルのキー/スイッチ部分をカッター等の尖ったものや、ツメの先で押さないでください。故障の原因となります。



注意 コントローラーの表面についた糊などの汚れを落とすときは、固く絞った雑巾などで拭き取ってください。（スポンジで水拭きしないでください。）



注意 コントローラーは危険防止のため、本機から外すと動作しなくなります。本機にセットして動作確認を行ってください。



液晶画面に異常があった場合や動作に異常があった場合は一度電源を切り、リセットボタンを押した状態で電源を入れてください。（オールクリア）
異常が修復できない場合はメーカーにご連絡ください。

操作パネル

画面切替

ボタンを押すと糊付画面の切替（通常↔詳細）、残量設定画面、トータル補正画面、履歴画面への切替えができます。



- ①スピードのUP、DOWN
- ②補正值の設定（+、-）
- ③糊付履歴のスクロール

枚数

枚数設定時に使用します。

糊付設定

糊付け長さの設定を行うときに使用します。

決定

入力した糊付設定・枚数設定・残量設定・補正值設定を決定するときに使用します。

リセット

- ①糊付量の値を0にするときに使用します。
- ②入力した数値を0にするときに使用します。
- ③トータルをクリアするときに使用します。
- ④オールクリアするときに使用します。



0~9

- ①数字キー。設定値入力に使用します。
- ②カウントストップ機能のON/OFF切替時に使用します。

寸動

寸動（インチング）で動かしたいときに使用します。
押している間だけ動きます。

スタート

糊付設定及び枚数設定後、運転するときに使用します。

操作方法

電源コードをコンセントに差し込み、コントローラー背面にある電源スイッチ(ON/OFF)をONにすると、通常糊付画面になります。

通常糊付画面

① 糊付設定を押します。背景が黒くなり入力待ち状態になります。

② 糊付けしたい数字を入力し決定を押してください。押し間違えたときはリセットを押してください。(例:右図は235cmが入力してあります)

③ 枚数を押してください。背景が黒くなり入力待ち状態になります。

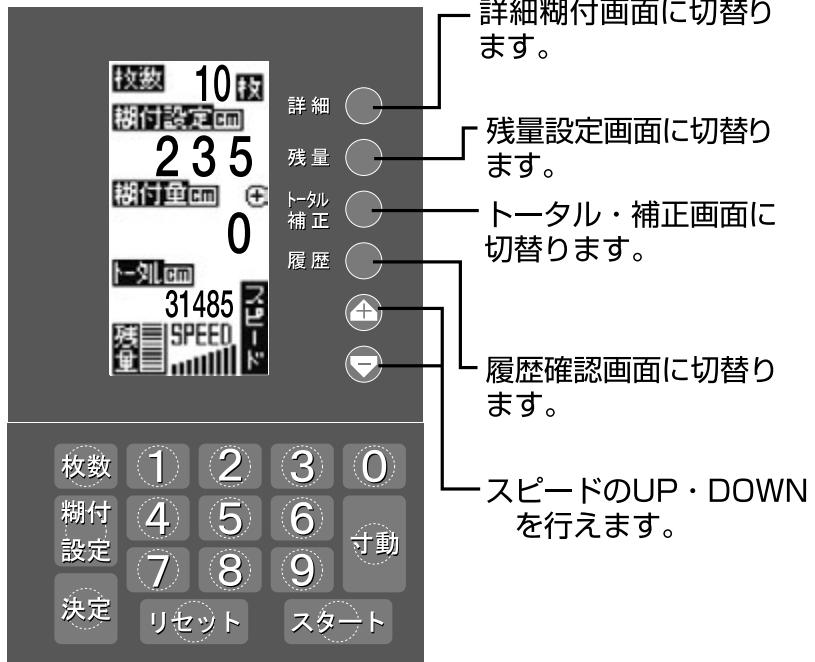
④ 糊付けしたい枚数を入力し決定を押します。(例:右図は10枚が入力してあります。)

⑤ スタートを押すと糊付けを開始します。糊付けが進むにつれ、糊付量がカウントされ235cmになった時点で、糊付けが停止します。

⑥ 停止すると、枚数表示が0枚となります。リセットを押すと糊付量が0になります。

⑦ この後⑤と⑥の作業を繰り返します。枚数が1枚ずつ減っていき、0になった時点でスタート押しても機械は動かなくなります。

● 枚数に関係なく糊付する場合は枚数を押して、リセットもしくは0を入力し、決定を押してください。この後、スタートで糊付けし、設定値に達するとカウントが加算されます。



△ 注意

糊付設定を変更するときはリセットを押して糊付量表示を0cmにしてから行ってください。

糊付量表示値よりも大きい値を設定しリセットを押さずにスタートしますと、前回の糊付量表示値からのスタートになりますので、設定値よりも表示値分が短くなります

△メモ

本機は糊付スピード、寸動スピードおよび割込運転スピードをそれぞれ任意に設定することができます。

④ ⑤ ボタンでスピードを設定してください。

糊付スピードはスタートを押しての運転中、あるいは運転していない時に設定します。

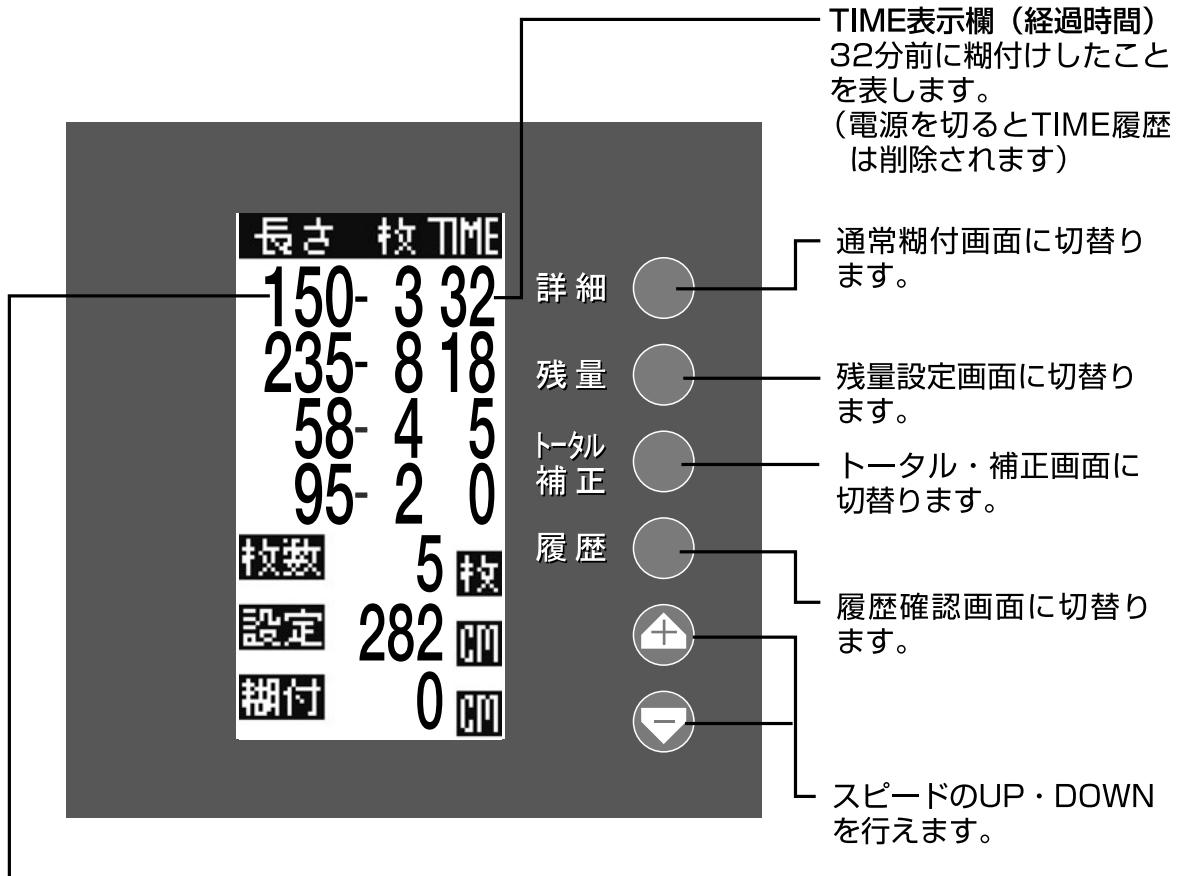
寸動スピードは寸動を押し続けて運転中に設定します。

割込運転スピードは割込スイッチで運転中に設定します。

画面下部(SPEED部)に現在のスピードの目安が表示されます。(スピード調整範囲 3~20m/分)

詳細糊付画面

通常糊付画面で詳細キーを押すと、詳細糊付画面に切替ります。
糊付けの詳細が解り、糊付けした経過時間（分）を右側に表示します。
(糊付けの詳細は20件保存し、古いデータから削除されます)



詳細表示欄

150×3は150cmを3枚
糊付けしたことを表します。

メモ

詳細部分を見ながら糊付けが可能です。また、詳細糊付画面のTIMEは、直近に糊付した(95cmを2枚)
時点から経過した時間（分）を表示（最大99分）します。
糊付けした壁紙のオープンタイムの確認等ご利用ください。

【残量設定】

糊タンク内の残量や壁紙の残量等、予め設定値を入力し、設定値まで糊付を行なつたら警報音が鳴り、それぞれの残量の目安にすることができます。



- 糊付画面の残量値キーを押すと、残量設定画面に切替ります。
- 数字キーを押し、設定値を入力します。
(左図は50を入力)
- 決定キーを押すと残量値が入力され、通常糊付画面に切替わります。画面左下の残量計目盛が表示されます。(横バー10本)
- 糊付け作業を進めるに従い、残量計目盛りが減っていきます。
- 設定値の糊付が完了したら警報音がなります。

残量機能の解除

残量設定画面で、0mを入力し、決定を押せば残量設定機能は解除されます。

△注意

設定値の糊付完了後、残量設定の解除、又は再入力を行わないと、糊付作業の度に警報音が鳴ります。

【トータル・補正画面】

1.補正機能

クロスの種類によって、多少設定長さに対して長く出たり、短く出たりすることがあります。

このような場合に、クロスの糊付け長さを割合で補正する機能です。



- 糊付画面でトータル補正キーを押すとトータル・補正画面に切替ります。
- (+) (-) のキーで補正值を設定します。補正值は-2.0%～+2.0%の範囲で0.5%毎に設定できます。
- 決定キーを押すと補正值が入力され、通常糊付画面に切替わります。液晶画面右側に補正值が+の場合は(+)を、補正值が-の場合は(-)を表示します。

補正機能の解除

補正の設定値を0.0%にして決定を押せば補正值は解除されます。

2.トータル機能

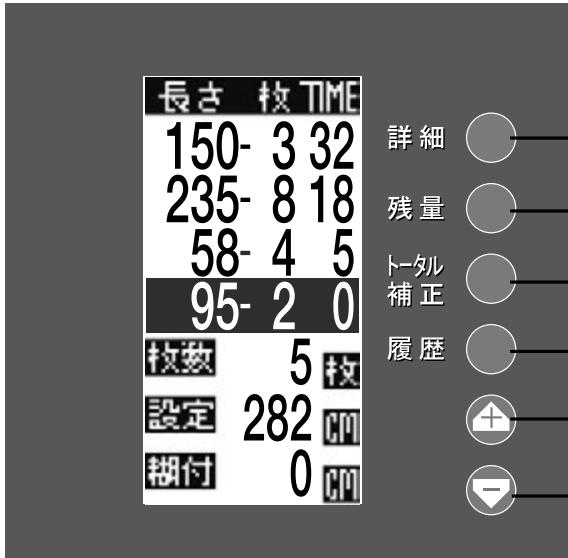
糊付量のトータルを通常糊付画面に表示できます。

トータル補正画面でリセットキーを押すとトータルをリセット(0)することができます。

履歴確認画面

糊付画面で履歴キーを押すと、履歴確認画面に切替わます。

 キーを操作する事で、糊付履歴をスクロールして確認することができます。



△注意

糊付けの詳細は20件保存し、古いデータから削除されます。
また、電源を切るとTIME履歴は、削除され、横バーが表示されます。

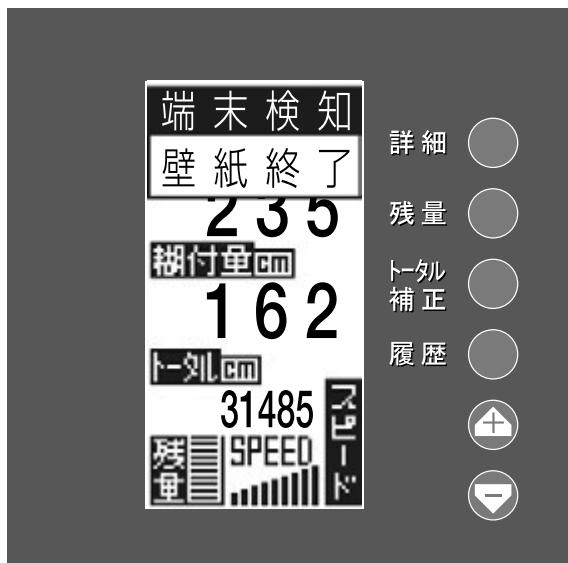
- 詳細  前の画面に戻ります。
- 残量  残量設定画面に切替わります。
- トータル補正  トータル・補正画面に切替わります。
- 履歴  前の画面に戻ります。
-   履歴をスクロールできます。

△メモ

他のキー(数字キー等)を押しても、元の画面に戻ります。

【カウントストップ機能】

糊付作業中に壁紙がなくなると端末（壁紙終了）を検知して自動停止し、糊付量のカウントがストップします。新しい壁紙をセットし、リセット後にスタートを押せば、糊付作業を再開できます。



△注意

実際の糊付量とカウント数では、誤差が生じます。

△メモ

カウントストップ機能を解除(OFF)する場合は、数字キー(5)を押しながら、電源を入れてください。
数字キー(4)を押しながら、電源を入れると、カウントストップ機能をONにできます。

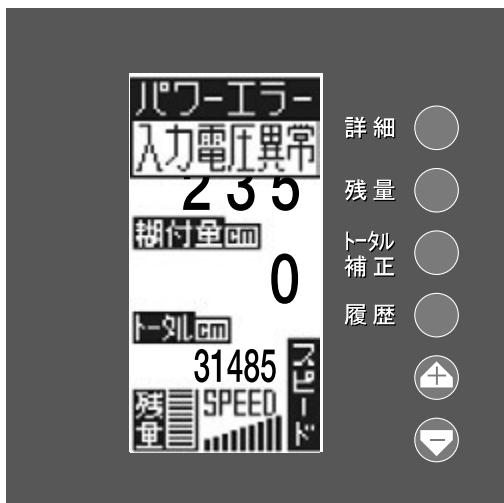
△注意

壁紙の種類によっては、カウントストップ機能が動作しない場合があります。

△注意

製品出荷時、カウントストップ機能は解除しています。
機能ご使用の際は、ON状態に設定して下さい。

【エラー表示画面】



●入力電圧異常

起動時、電圧が70V以下もしくは130V以上の場合は、左記エラー表示が点灯し、コントローラーは動作しません。適正な電圧で作業してください。

動作中に電圧低下があった場合は、エラー表示しますが、動作はします。

電圧が復旧するとエラー表示は消えます。

(ただし、スピードが遅くなる等の症状が出る場合があります)



●過負荷異常

ギヤ・ローラー等に噛み込みや巻き込み等があり、コントローラーのモーターに過負荷がかかった場合、左記エラー表示を点灯し、コントローラーを停止します。原因を取り除き再度作業してください。



●センサー読み込み異常

糊付け運転中、上部フレームのパチン錠が閉められていない場合やコントローラーが本体に正しくセットされていない場合、あるいはセンサー部分に異常があった場合に左記エラー表示が点灯します。

本体部の掃除・手入れ

掃除・手入れの程度が機械の性能と寿命に大きく影響しますので、糊付作業が終われば以下の掃除及び手入れを行ってください。

本体部の掃除

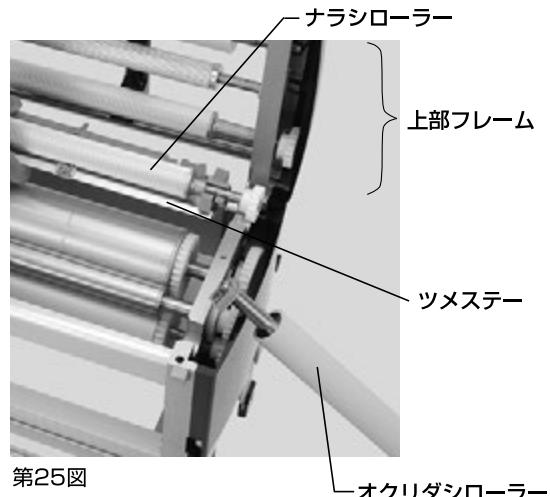
- ①機械本体を空運転させながら糊厚調整レバーを絞って糊ローラーとドクターローラー表面の糊を糊タンクに落とします。
- ②糊付機械を停止させた後、上部フレームを開き、コントローラー、スリッター、オクリダシローラー、ツメステー及びナラシローラーを機械本体より取り外してください。
(第25図参照)
- ③取り外したツメステー及びナラシローラーは、スポンジ等を使用して水洗いしてください。
- ④機械本体より糊タンクを完全に引き出し、糊タンクの中の糊を糊バケツに戻します。
※糊タンクを引き出す際に糊ローラーより糊が床に垂れることがありますので、予め床に養生しておいてください。
- ⑤糊タンクから糊上げローラーを外し(P28第26図参照)、スポンジ等を使用して糊上げローラーを水洗いしてください。この段階では、糊タンクは完全に洗浄せず、ゴムベラで掻き落せる分だけ糊を落します。
- ⑥糊上げローラーを外した状態で糊タンクを機械本体にセットします。
- ⑦手で糊ローラーを回転させながら、糊ローラー及びドクターローラーをスポンジ等で水洗いしてください。(P28第27図参照)
- ⑧再び機械本体から糊タンクを完全に引き出し、糊タンク内を洗浄します。

⚠ 警告

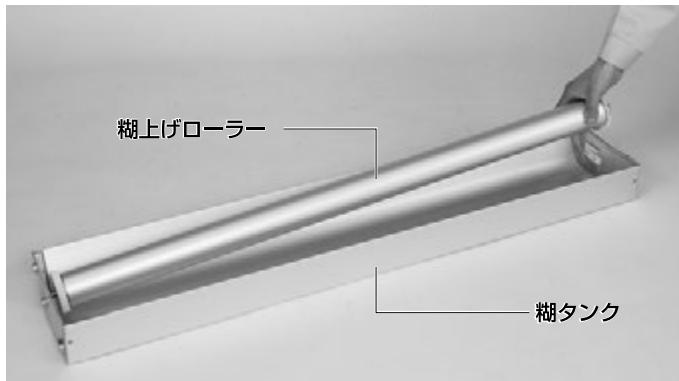
機械本体を洗浄するときは、コントローラー、スリッター及びオクリダシローラーを取りはずして行ってください。ローラーの間に手や衣類を巻き込んだり、スリッターの刃物で手を切ったりするなどの思わぬ事故を未然に防ぎます。

△ 注意

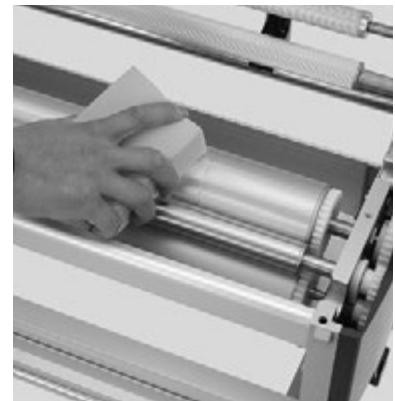
糊ローラー、ドクターローラー表面の糊は完全に除去してください。薄い膜状に糊が残っているだけで糊付け状態が悪くなることがあります。又、オクリダシローラー、検尺ローラーについても糊が表面に残っていると、表面にひび割れを起こし、正常な運転をしなくなる恐れがあります。



第25図



第26図



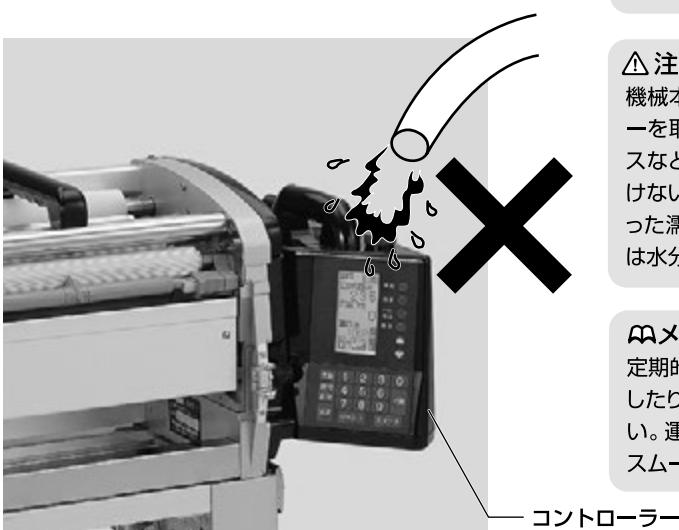
第27図

⑨糊上げローラーを糊タンクに取付け、機械本体にセットします。

⑩スリッター、コントローラー、オクリダシローラー、ツメステー及びナラシローラーを機械本体に取付けてください。

⑪洗浄後、乾いた布等で水分をよく拭き取ってください。また、脚やフレーム等に付着した糊もきれいに拭き取ってください。

機械の手入れ



第28図

△注意

センサー基板の部分には水や糊をかけないようにして下さい。万一かかった場合は、雑巾などで拭き取り乾燥させてください。

△注意

機械本体を洗浄するときは、コントローラーとスリッターを取り外して行ってください。第28図のようにホースなどで水を直接コントローラーやスリッター等に掛けないようにしてください。汚れを落とすときは固く絞った濡れ雑巾をご使用ください。水が掛かった場合には水分をよく拭き取ってください。

△メモ

定期的にローラーの軸受部やギヤ部にグリースを注入したり、ギヤの歯に固まってついた糊を落としてください。運転中の異音の発生を防ぐとともに、常に機械をスムーズに運転させることができます。

本機には、糊厚調整工具以外の工具は付属されていません。

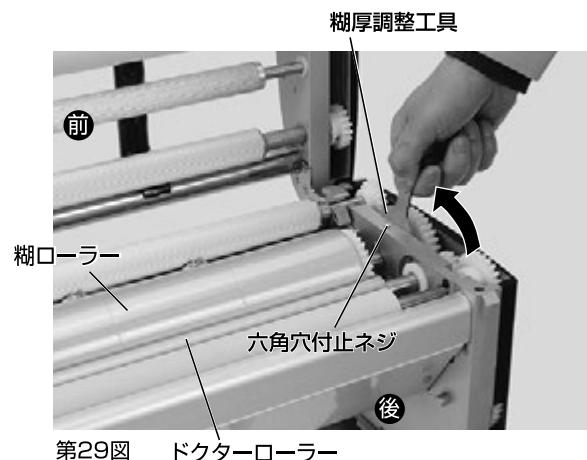
本機の調整点検には、ドライバー (+) 、六角レンチ (3mm) 、ボックスレンチ (10mm) 等が必要ですので、事前に市販の工具（ドライバー、レンチ等）を準備してください。

1. 糊ローラーとドクターローラーのクリアランス調整

【糊が絞れないときの調整】

(糊付機械に糊が入っていない状態で行うと容易です。)

- ①左右とも糊厚調整レバーを目盛〇の位置にあわせ、糊厚ツマミを締めます。
- ②左右とも六角穴付止ネジを六角レンチ(3mm)で緩めてください。
- ③第29図のように、糊付けギヤと軸受板の間にある糊ローラーブッシュ六角部に付属の糊厚調整工具をはめ込み、矢印の向きにゆっくり動かしてください。糊ローラーが移動します。
- ④ローラーを手で回しながら、糊ローラーとドクターローラーのすき間が0mmの位置で、六角穴付止ネジを確実に締め込んでください。



第29図 ドクターローラー

【左右で糊付量が違うときの調整】

(糊付機に糊を入れた状態で行うと容易です。)

例：左側を右側と同じ目盛にあわせる場合

- ①左右とも糊厚調整レバーと同じ目盛にして、糊厚ツマミを締めます。
- ②左側の六角穴付止ネジを緩めて、第29図のように糊厚調整工具を使って、糊ローラーを移動させます。
※矢印の向きに動かすと糊が絞れ、反対の向きに動かすと糊が多くつくようになります。
- ③割込みスイッチで運転させて、糊量を確認してください。
※壁紙等で実際に糊付け確認すると、より正確に調整できます。
- ④左右のバランスが同じになったところで六角穴付止ネジを確実に締め込んでください。

⚠ 警告

コントローラーは取り外した状態で調整してください。

△ 注意

糊ローラーとドクターローラーは強く接触させないでください。接触させるとローラー表面が傷つき、糊付け状態が悪くなります。

△ 注意

左右の糊付状態を確認する時は、必ず上ブタを閉めてください。上ブタが開いていると、実際の糊付状態と異なる場合があります。

2. 檜尺ローラーのピンチ圧調整

(クロスの蛇行調整・クロス原反があがらないとき)

クロスが蛇行する場合やクロス原反が上がらないときは、ボックスレンチ(10mm)又はスパナ(10mm)で本体軸受板(3、4)の六角ナットを緩めてからピンチ圧調整用バネ止メネジ(六角穴付)を六角レンチ(3mm)で回してピンチ圧を調整してください。(第30図参照)

[例]

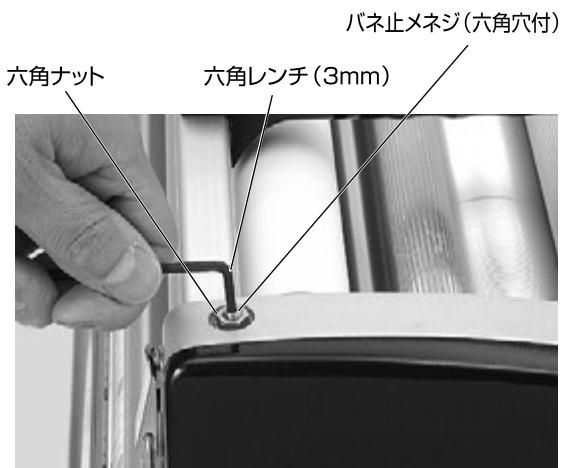
クロスが、糊付機械正面からみて左側に寄って出る場合

糊付機械正面からみて右側のピンチ圧調整用バネ止メネジ(六角穴付)を六角レンチで緩めてください(時計逆方向)。又は左側のピンチ圧調整バネ止メネジ(六角穴付)を六角レンチで締めてください(時計方向)。又、上記調整はクロス(糊付けなし)を通しながら行うと容易に行えます。調整が終わったらボックスレンチ(又はスパナ)で六角ナットを締めてください。

△メモ

締めすぎるとクロスの糊付け長さは設定より若干長めに出るようになります。

また締めすぎ、緩めすぎてもクロスの引き上げ能力が落ちます。



第30図

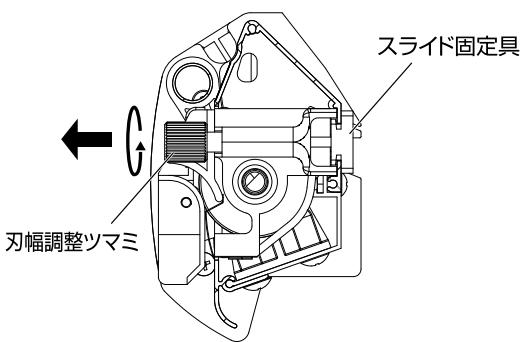
スリッター刃物の交換方法

スリッターの刃物は、消耗品です。スリッターの切れ味が悪くなったら刃物（カッターボックス）を交換してください。厳密に修理する場合は、一旦当社へスリッターを戻していただき、詳細な点検調整を行ってください。

スリッターの刃物の交換方法

カッターボックスの外し方

- ①スリッターを本体から外してください。
- ②刃幅調整ツマミを時計の針と逆方向に回し、後ろのスライド固定具から外してください。
(第31図参照)
- ③SSブラケットと駆動軸を固定しているE型止メ輪（呼び径6）を（-）ドライバー等で取り外します。（第32図参照）
- ④左右の軸受カバーを固定しているビス各2個を（+）ドライバーで緩めて軸受カバーを外します。駆動軸ギヤが見える側は駆動軸端部の駆動軸ギヤを固定している六角穴付止メネジを六角レンチ（2.5mm）で緩めて取り外します。
(反対側は、この作業は不要です)
- ⑤駆動軸を矢印方向へ押し込んでいくと、カッターボックスが外れます。（第32図参照）



第31図

⚠ 警告

刃物を交換するときは必ずスリッターを本体から取り外して行ってください。

⚠ 警告

本製品は刃物に触れることがないよう安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

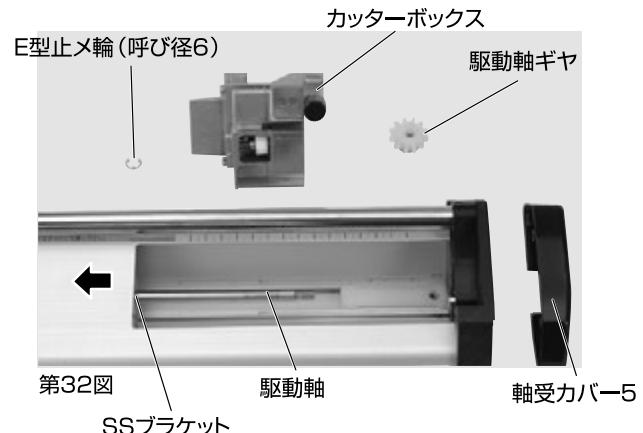
カッターボックスを分解しないでください。
手を切る恐れがあります。

△ 注意

セラミッククロス、無機質クロス等、壁紙の種類によっては、極端に刃物を傷めますので注意してください。

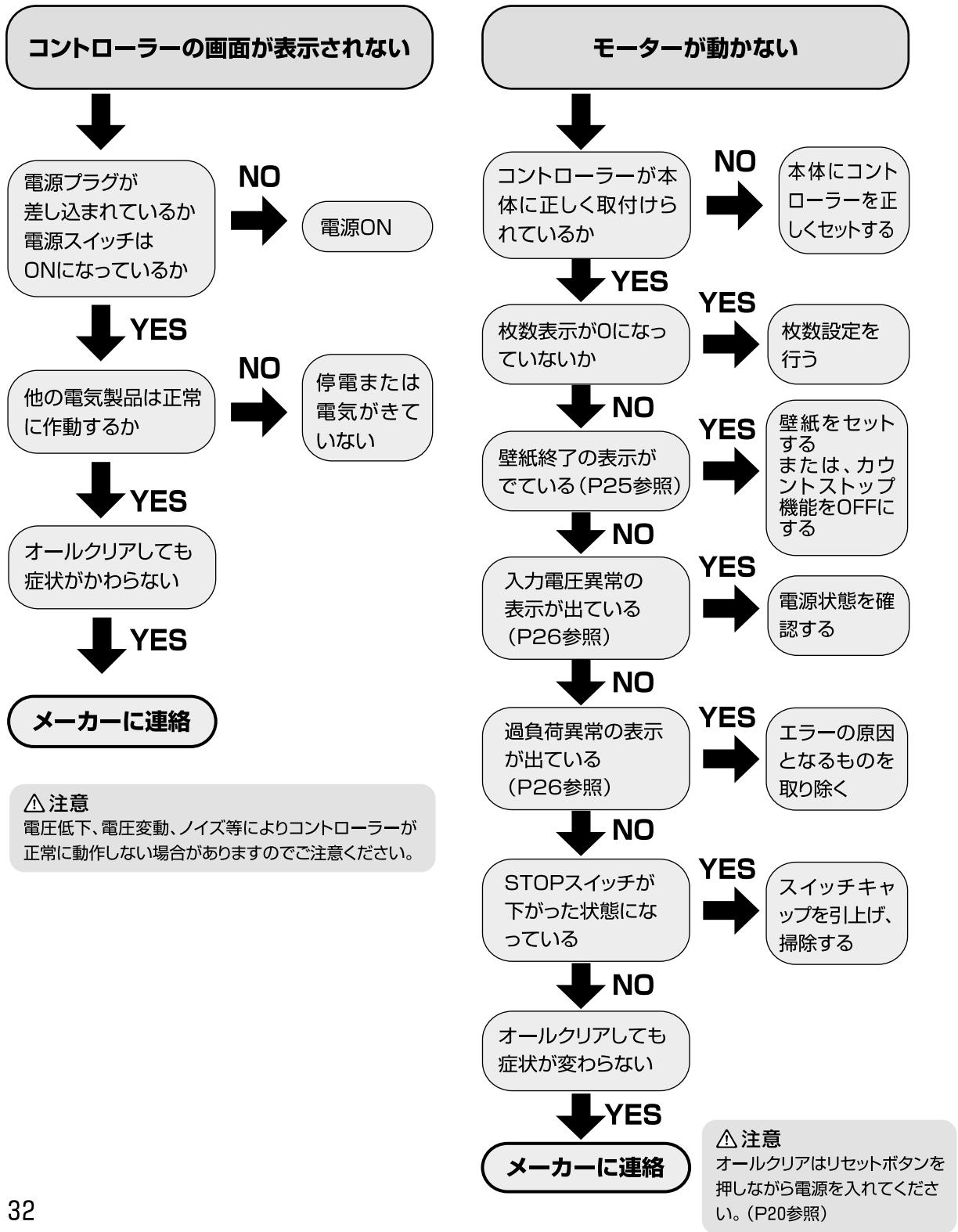
△ メモ

スリッターの刃物は、3分間程度空回ししますと切れ味がよくなる場合があります。



故障だと思われる前に

本機に異常が生じた場合は、次の手順に従ってチェックしてください。



糊付量表示がカウントしない
センサー読込異常の表示が
出ている(P26参照)

コントローラーが本
体に正しく取付けら
れているか

NO

本体にコント
ローラーを正
しくセットする

YES

上部フレームのパチ
ン錠は確実に締まっ
ているか

NO

パチン錠を
締める

YES

オクリダシローラー
が本体に正しく取り
付けられているか

NO

本体にオクリ
ダシローラー
を正しくセット
する

YES

本体のセンサーケー
ル(基板部)に糊や水な
どがついていないか

YES

拭きとり乾燥
させる

NO

オールクリアしても
症状がかわらない

YES

メーカーに連絡

クロスにしわが発生する
クロスが蛇行する

クロスが斜めにセッ
トされていないか

YES

クロスをま
っすぐにセッ
トし直す

NO

左右のパチン錠(本
体)が閉まっているか

NO

パチン錠を
閉める

YES

左右のクロス受けブ
ラケットがずれてい
ないか

YES

クロス受け
ブラケットを
正しくセット
し直す

NO

テンションバーが正
しくセットされてい
るか

NO

テンションバ
ーを正しく
セットする

YES

スリッターテンション
バーが正しくセット
されているか

NO

スリッターテ
ンションバー
を正しくセッ
トする

NO

クロス原反の巻きが
正常か

NO

クロスを正
しく巻き直
す

YES

検尺ローラーのピン
チ圧が左右同じにな
っているか

NO

ピンチ圧を
調整する
(P30参照)

YES

オクリダシローラー、
検尺ローラーに変形、
摩耗はないか

YES

部品交換

NO

メーカーに連絡

別売オプション

11



404-955 NEWコントローラー収納ボックス
※中仕切り付の高強度コントローラー収納ボックス

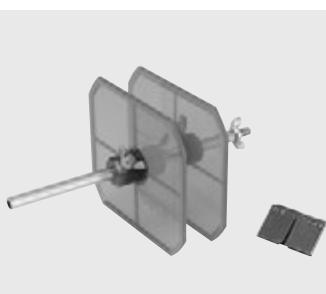


404-954 ライトボックス
※軽量タイプのコントローラー収納ボックス

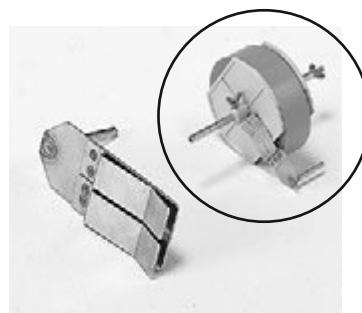


408-670 テープガイド38mm巾
408-671 テープガイド45mm巾

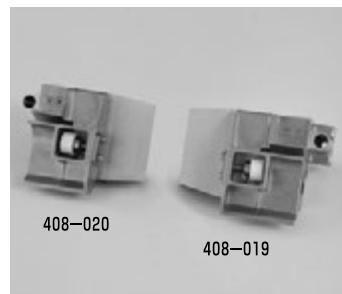
※コントローラーや付属品の収納、運搬に最適です。



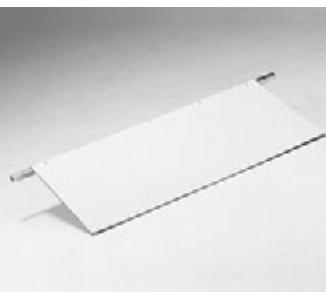
408-168
ワンタッチカットテープ取付キット・SP



405-804 テープテンションブラケット
※カットテープの蛇行を抑えます。



408-019
カッターボックスセット(左)N・リサイクル
408-020
カッターボックスセット(右)N・リサイクル



405-806 クロス受け板



404-918 NEWカバーシート
※現場のほこりをかぶらず、糊の乾燥防止にもなります。



409-840 φ100mmキャスター(ストッパー有)
409-841 φ100mmキャスター(ストッパー無)
※薄型スナバ(19×21mm)を使用し、
標準キャスター(φ75mm)と交換できます。

●本体

(本体カバー、クロス芯棒、テンションバー、付属品の重量は含んでおりません)

重 量	23.9kg (本体部17.2kg 脚部6.7kg)
寸 法	全幅 1,180mm (コントローラー装着時 1,283mm)
	奥行 400mm (本体部 255mm)
	全高 813mm (脚折りたたみ時 423mm)
有効糊付幅	1,010mm
糊タンク容量	約12.5リットル

●スリッター

重 量	3.1kg
寸 法	全幅 1,160mm
	奥行 85mm
	全高 130mm
有効裁断幅	760～970mm

●コントローラー

重 量	2.9kg
電 源	AC100V 50Hz／60Hz
出 力	33W (最大180W)
消費電力	220W
糊付スピード	3～20m／分
使用温度範囲	0～40°C

※製品内容・仕様は改良等のため、予告なしに変更することがありますので、
予めご了承ください。

ヤヨイ化学工業株式会社

本社 〒939-1272 富山県高岡市下麻生4649 TEL(0766)36-2800(代)

フリーダイアル：0120-303-841